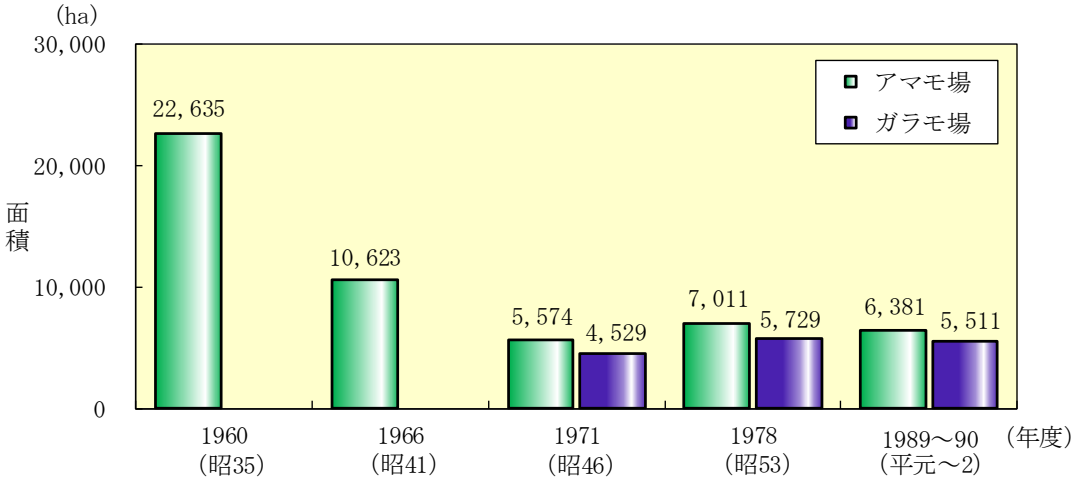
(3) 瀬戸内海の沿岸域(藻場、干潟等)

1) 藻場、干潟

魚介類の生育の場として重要である藻場、生態系の維持あるいは水質浄化に重要な役割を担う干潟は減少傾向にある。それぞれの面積の推移を図 1－8、図 1－9 に瀬戸内海における藻場、干潟の現状を表 1－12 に示す。

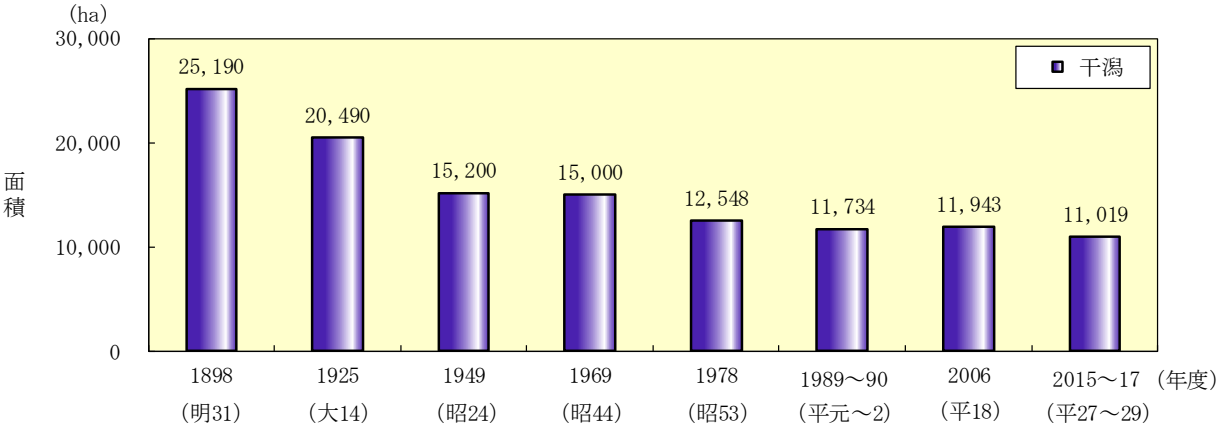
瀬戸内海の沿岸域においては、多様な生物の生息や繁殖の場である藻場・干潟が多く失われてきている。藻場のうちアマモ場については、1960 年度（昭和 35 年度）から 1989～90 年度（平成元～２年度）までに約７割、干潟については、1898 年度（明治 31 年度）から 2015～2017 年度（平成 27～29 年度）までに約５割が消失したことが報告されている。



注）1. 湾・灘の区分は各調査に準ずる。
2. 1978 年度の（第２回自然環境保全基礎調査）の値は、1989～90 年度（第４回自然環境保全基礎調査）の面積に消滅面積を加算した値である。

出典：1960、1966、1971 年度：水産庁南西海区水産研究所調査
1989～1990 年度（第４回）:「自然環境保全基礎調査」（環境庁）

図 1－8 瀬戸内海における藻場面積の推移(響灘を除く)



注）1. 湾・灘の区分は各調査に準ずる。
2. 出典により、面積測定方法に違いがある。
3. 1978 年度（第２回自然環境保全基礎調査）の値は、1989～90 年度（第４回自然環境保全基礎調査）の面積に消滅面積を加算した値である。

出典：1898、1925、1949、1969 年度：「瀬戸内海要覧」（建設省中国地方建設局）
1978 年度（第２回）、1989～1990 年度（第４回）：「自然環境保全基礎調査」（環境庁）
2006 年度：「瀬戸内海干潟実態調査報告書」（環境省、平成 19 年３月）
2015～2017 年度：瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査（環境省）

図 1－9 瀬戸内海における干潟面積の推移(響灘を除く)